

YMCA Camp Stories vol. 22



キャンプは「聖地」！

齊藤 實

Minoru Saitoh

元東京 YMCA 副総主事
YMCA 史学会理事長

▼ 敗戦直後の YMCA キャンプ

70 年ほど前の話である。でも、昔話ではない。70 余年もの日々を YMCA につなぐ大事な出発点となった私の「会員生活の原点」の話である。

私は、1946 年 9 月 26 日に東京 YMCA 会員になった。その頃すでに教会での主日礼拝には出ていたが、もっと多彩な友人関係を築きたかった 19 歳の私であった。入会した翌 1947 年の夏、私にとって最初の「YMCA の夏」が来た。東京 YMCA にとっては、キャンプを再開したばかりの二年目の夏であった。3 泊 4 日のキャンプでは、「米一升二合」持参が参加条件であった。新宿駅から電車で富士吉田駅下車、乗合バスを湖畔の旭ヶ丘で下車。左に山中湖を見ながら歩いてキャンプ地に入る。その道中の語り合いは、会員を YMCA キャンパーに作り変える手立てとなった。

戦争が終わると、農地改革のあおりで東京 YMCA は危うくキャンプ地の不在地主となりかけた。その時、主事・原直治郎が一家を挙げて、冬の備えもなく周囲に何の施設もない無人の山中湖畔に移り住んだ。だから、キャンプ地は取りあげられず、YMCA キャンプ地として再出発できたのであった。

▼ 「ここは神の国か？」～YMCA 職員へ転職

キャンプの朝、板木が鳴ってお稲荷さんの小さな社殿のようなたたずまいのキャビンの戸を開けた。清々しい空気があった。湖は紅色の富士山を映していた。静かだ。この雰囲気こそ、清いというべきか。戦災復興途上の荒れた東京から来た私は、思わず「ここは神の国か」と背筋に電気が走った。朝夕の礼拝は、イエス・キリストの福音を証しするYMCAにふさわしい心構えをキャンパーに植え付けるものであった。

その2年ほど前、アジア太平洋戦争が終わるまでの私は、高等商船学校生徒であり海軍予備生徒でもあって、その朝夕は隊伍で円陣を歩く軍歌輪唱であった。でも、ここ山中湖畔では“静かな湖畔の森の蔭から”小鳥の声が聞こえた。キャンパーの入れ替え時に限って小雨がキャビンを濡らした。期せずキャンパーが歌う。あの“やまべに降る雨は、音もなくそそぎ、小鳥の巣を濡らし、ほのかに花はひらく。アロハオエ、アロハオエ……”。この歌と朝夕の旗上げ・旗下げで歌う“YMCAの歌”で、作詞作曲家、津川主一の名を知った。牧師を引退していた津川の歌は、キャンプ生活で結ばれた「YMCA会員」の交わりを年間活動に導いて力があつた。

翌1948年夏の会員キャンプを終えた9月1日、私は東京YMCA職員になった。東京都交通局職員からの転職であったが、当時の心境で言えば、神さまの召命を受けた「YMCAへの献身」であった。



東京YMCA 観音崎海浜キャンプ

▼今も昔も人を育てて

あの頃、強く意識されていたのは、「夏のキャンプは、会員活動一年の総決算の集いであり、同時に、秋から始まる新たな会員活動開始への勢ぞろい」だという「YMCA キャンプの位置付け」であった。当時数十を数えた青年成人会員クラブ活動のハイライト、それが、キャンプであった。その YMCA キャンプのあるべきかたちとして、必ず牧師と医師がキャンパーとなった。「東京 YMCA 家族キャンプ」や「野尻学荘」など多くのキャンプは今もこの伝統を守っている。家族キャンプでは私が担当した数年間、青年成人部委員長でもあった医師・坂村友三、鶴見典男両先生が家族ともども参加された。

霊南坂教会の飯清牧師がチャプレンであった。キャンプ地を走り回っていたその子息・飯忍は、成人して YMCA 主事となり、YMCA キャンプの伝統を継承してくれた。リーダーシップが自然に身に着く。それこそが、YMCA キャンプのよき伝統なのである。

山中湖畔の「東京 YMCA キャンプ」。それは、私にとっては新たな生き方を強く方向付けた「聖地」であった。



1953 年開設直後の「東京 YMCA 観音崎キャンプ」で。前列中央が齊藤實さん。少年部リーダーと一緒にキャンプ地開設作業をすませ、そのまま駐在スタッフとなった。

Profile



1927 年生まれ。元東京 YMCA 副総主事。YMCA 史学会理事長。
1946 年に東京 YMCA 会員となり、1948 年に職員へと転職した。
92 歳の今も週 3 日東京 YMCA 資料室で史資料整理を務める。

<著書>

『東京キリスト教青年会百年史』東京 YMCA 発行、1980 年

『キャンプの基礎』（第 5 章「キャンプの実施」執筆）日本 YMCA 同盟出版部発行
江橋慎四郎・今井鎮雄編、1986 年

『野外教育の理論と実際』（第 2 章「キャンプの歴史」執筆）学文社発行、1996 年

『東京 YMCA130 年の歩み』東京 YMCA 発行、2010 年

『賛育会の百年』社会福祉法人賛育会発行、2018 年、ほか多数。